

1 これまで3年間（H20～22年度）の取組について

1 児童・生徒の状況

(1) 学習事項の定着（学力）について

平均正答率は、毎年、国語・算数どちらの教科においても良好な結果となっている。

正答率80%以上の児童の割合は、19年度が最も多く、その後減少したもののこの2年間は、ほぼ同じ割合で推移している。

また、正答率40%以下の児童の割合は、21年度は、若干増加したが、22年度は、大幅に減少した。

漢字の書き取りや計算練習などの朝学習の取組みやとりわけ継続的な授業以外の時間での個別のていねいな指導や授業内容や組み立ての工夫によって、基本的な学力は、身につけていると考えられる。

主に知識の力を見るA調査については、国語・算数では、高い正答率の結果となっており、基本的な学習の定着が見られるが、活用力を見るB問題については、22年度は、特に算数において低い正答率となった。算数・国語とも「書く」能力や「記述式」に課題がみられ、思考したことを論理だてて、文字で書き表すことについては、苦手と思われる。また、最後まで集中力が持続せず、あきらめてしまう傾向もみられる。

学力の二極化の傾向が見られ、きめ細かいていねいな支援を必要とする児童もいる。

(2) 「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

児童は、全体的に素直でまじめに取り組むことができ、きまりを守って友だちとなかよくがんばろうとする姿が見られる。

しかし、生活背景にしんどさを抱えている児童のみならず、学力の高い児童においても自尊心が低かったり（自分力）、自分の思いや考えをうまく伝えることができずトラブルになるなど表現力の乏しさやコミュニケーション力（つながり力）が課題と思われる。

2 学校の取組

努力目標推進委員会・人権教育推進委員会・支援委員会の各委員会を中心として、各学年が、学力向上・児童のニーズにあった支援をめざして取組んできた。

国語においては、学年研究をすすめ授業改善に生かすことができた。朝の一斉読書や朝学習については習慣化され、落ち着いて学習に取り組むことができています。

児童の実態を把握し、支援の必要な児童への効果的な支援やユニバーサルな授業づくり・学級づくりに取り組むことができ、すべての児童が参加できる行事の工夫を行うことができた。

話し合い活動を中心とした集団づくりを進め、お互いを認め合う仲間作りに取り組んできた。

少人数指導担当教員と担任におけるきめ細かな算数の授業により、基礎的な学力の定着が進んだ。

専門支援員や支援教育サポーター等の人的配置により、学習に参加しにくい児童や学習の理解が遅い児童の学習意欲が高まり、きめ細かな指導を行うことができた。

しかし、児童の生活指導や保護者対応に費やす時間が多く、じっくり子どもに向き合ったり、授業研究を深める時間が少ないのが現状である。

また、個別の支援を必要とする児童が増え、担任一人が指導するには限界があり、専門支援員や支援教育サポーターとも共通理解を進めながら連携してていねいな支援が必要である。

2 これから3年間（H23～25年度）の取組について

1 3年間の重点課題

	重点課題	検証軸	25年度の到達目標
①	全教科において「書く」ことを通じた表現豊かな児童の育成をめざした授業の工夫・改善	国・府学力テスト 市算数診断テスト 質問紙調査 研究・公開授業 ノートの書き方	正答率 40%以下の児童の割合を増やさない 各教科のノートの書き方の統一 学習ルールの徹底
②	自尊感情を高め、お互いを認め合い、温かな人間関係を構築する	質問紙調査 児童の実態交流 行事の反省	つながり力・自省力・ゆめ力の該当項目の数値を上げる
③	教職員の授業力向上・資質の向上	学校教育自己診断 研究授業の相互評価	学校教育自己診断項目の数値を上げる 学年1本の研究授業

2 3年間の取組計画

3年間共通の計画	年度ごとの計画	
<p>学力の向上、特に「書く」ことを全教科の授業のみならず意識的に日常的な活動に盛り込むことによって豊かな表現活動の育成をめざす。あわせて、語彙力を増やすことで、コミュニケーション能力を高め温かな人間関係を築かせたい。</p> <p>また、児童のニーズに合ったきめ細かな支援を学年・学校体制として進めていく。</p> <p>① 「学び力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習、朝の一斉読書、図書館ボランティアによる読み聞かせ さまざまな形式の音読 「書く」ことを意識した学習活動（ノートの取り方、一言日記、キーワード作文等）、授業改善と工夫 3・4年における算数科の少人数指導 ICT活用モデル校としての取組み <p>② 「ゆめ力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな体験と地域の人々をふくむ多様な人々との体験活動 5・6年外国語活動 35時間の学習 <p>③ 「つながり力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態把握 学級会での話し合い活動 みんなが参加できる行事の工夫 遊び交流 	平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> 三委員会を中心とした取組みの推進 基本的な学力の定着 新教育課程の点検 読書活動の推進 豊かな表現を生み出す授業づくり コミュニケーション力の育成 遊びを通じた体力向上の取組み
	平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の取組み検証と課題克服にむけた方策の確立

<p>④ 「自分力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳授業の工夫 ・ 基本的な生活習慣の定着←保護者啓発 <p>⑤ 体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育授業の改善・工夫 ・ 日常の遊びを取り入れた体力向上の取組み（遊びの紹介 なわとび週間等） <p>⑥ 教職員の授業力アップ・資質アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業力の向上 ・ 経験の浅い若い教員への OJT の取組み ・ 校務システムの活用と ICT を活用した授業の工夫 ・ 大池ノウハウの伝達 ・ 共同事務事業実施による事務職との連携 ・ 個人情報保護 	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組みの検証と次年度に向けて
---	----------------	--

3 推進体制

